

茨城県上海事務所だより ～ 近年の中国事情とイノベーション ～

茨城県上海事務所

代表（副所長） 滝 正典

1. はじめに

2019年4月に、私が筑波銀行から茨城県上海事務所の駐在員として赴任してから、はや半年が経過しようとしています。

近年の中国の変化の速さは、目を見張るものがあり、「1～2年でも中国市場から目を離すと、以前とはまったく違った景色になっている」と感じながら過ごしています。

今回は、この半年間で、実際に私自身が見聞きしたことや体験したことを中心にご紹介していきたいと思います。

2. 中国事情

実際、2019年に入ってからの中国は、内需拡大に資する施策や大幅な減税などが打ち出されている一方で、リスク要因としては、①民間企業などに必要な資金が行き渡らないことによる投資の先送りや資金繰り倒産などの増加、②自動車や素材などの在庫調整が進まず、卸売物価が一段と下落することによる企業収益の悪化、③米中貿易摩擦の激化や世界経済の急減速といった外部環境の悪化などが挙げられます。

また、最近の香港情勢が香港経済に与える影響として、8月5日、ポール・チャン財政長官は、第2四半期のGDP成長率が前年同期比で0.6%増、前四半期比で0.3%減であったことを挙げ、香港経済は下向き圧力に直面している旨の発言もありました。

米中貿易摩擦や香港での抗議活動が引き続き香港経済に影響を与え、第3四半期のGDP成長率が前四半期比でマイナス成長になった場合、香港経済は不況に陥る懸念があることでしょう。

私も7月以降に、香港近隣の広東や澳門に出張しましたが、抗議活動は香港各地でも行われているとの情報もあり、引き続き、地域情勢については注視しているところです。

3. 上海における身近な動き

○上海への入境者、20年までに1,000万人目標
上海市への海外旅行者の入境者数（香港・マカオ・台湾からの旅行者含む）について、2020年までに延べ1,000万人突破を目標にするとの発表がありました（上海市の宗明・副市長が上海市観光工作会議で表明）。

英ロンドン、仏パリ、米ニューヨーク、東京などといった国際都市をベンチマークに据え、上海観光業を発展させる方針とのことです。上海市への2018年における海外旅行者の入境者数は前年比2.4%増の893万7,100人、このうち、1泊以上宿泊した旅行者は3.2%増の742万400人だったそうです。これにより観光による外貨収入は8.2%増の73億7,100万米ドル（約8,250億円）に上りました。

目標達成に向けては、黄浦江を航行する遊覧船の運行改善や長江デルタ域内での交通便利化、査証（ビザ）の規制緩和を検討していくほか、空港やホテル、観光地、商業施設などでは、公共施設の表示改善やスタッフの対応など各種サービス向上に力が入るとのことです。

これまで国際都市として発展し続けてきた上海ですが、世界の大都市に比べて上海への入境者はまだ隔たりがあるため、入境者の動きには今後も注目していきたいと思います。

○上海の2空港を繋ぐ新路線着工、24年開業へ

上海には、国際線メインの浦東空港が東郊外に、国内線メインの虹橋空港が西郊外にあります。今年6月、この2空港を繋ぐ新路線が着工しました。2024年開業予定のこの路線は、浦東側にある上海ディズニーランド付近のテーマパークエリアや張江ハイテクパーク、七宝などの住宅地域を途中駅として繋げることから、通勤や通学、レジャーにも利用できる鉄道路線となる見通しです。

これは、日本で例えるならば成田・羽田間を東京ディズニーリゾート、幕張、お台場を通過しながら30分で繋ぐ鉄道路線ということになります。

近年、虹橋空港の周辺は、副都心とも呼べるような虹橋商务区（JR山の手線内の1.3倍の面積を有する）の開発が進み、一大CBD（Central Business District）の形成に向け、オフィスビルやマンション、ショッピングモール、ホテルなどの建設が急ピッチで進んでいます。

このエリアには、中国最大の博覧会場である「国家会展中心（東京ビッグサイトの5倍の展示スペースを持つ）」があり、2018年11月に「第1回中国国際輸入博覧会」が開催されました。今年も11月に開催される予定です。

現在、浦東・虹橋空港は直行バスと地下鉄により結ばれているものの、1時間半～2時間の時間を要しており、新しい鉄道路線は飛躍的に利便性を高めることになりそうです。

上海では浦東空港の需給逼迫の緩和のために、第3空港が建設されるとの噂も様々な媒体で報道されています。近い将来、ジョン・F・ケネディ、ラガーディア、ニューアークの3空港を有する、ニューヨークのようになるかもしれません。

○上海でゴミ分別が始まる、経済波及効果も

上海市で7月1日に「生活ゴミ管理条例」が施行され、ゴミ分別が法的に行われるようになりました。生活ゴミを「資源」「有害」「生ゴミ」「その他」

の4種に分類し、それぞれのゴミを混ぜて捨てることを禁止するなど他の都市より厳しい分別基準が導入されました。導入初日にはレストランやホテルなどを中心に計623件の改善命令が出されるなど一部では混乱が生じました。

一方で、新条例は市の狙いどおり、生活ゴミの削減に効果を発揮しているようです。大手チェーンのスターバックスコーヒーでは市内の各店舗でプラスチック製のストローの提供数が数百万本減少しました。中国電子商取引（EC）最大手、阿里巴巴集団（浙江省杭州市、アリババグループ）傘下の出前サイト「餓了麼」によると、上海エリアで注文時に使い捨て食器を不要とした利用者は前月から471%と大幅に増加したそうです。

また、条例に関連して、通販サイトでは分別式ゴミ箱の販売が伸びたり、ゴミ箱向けプラスチック製品の販売量が急増したりと、意外なところにも経済波及効果をもたらしています。

中国のゴミ分別の取り組みは、2000年には試験的にスタートしていましたが、法制化には20年近い歳月を要しました。ゴミ処理企業が急増し始めたのは2011年からで、2018年には1年間で8,233社が新規参入しました。これは2000年から12年までの累計新規参入数8,142社を上回ったそうです。

上海は、中国随一の都市であります。環境に配慮した取り組みが完全施行された年に赴任してきたことは感慨深いものとなりました。

？ 上海ってどんな街 ？

上海ってどんな街？日本から近い場所なのに意外と知られていない基本的な知識をご紹介します。

Q. レートは？

A. 1元＝約15円（2019年8月20日現在）

通貨単位は「人民元」（RMB）で、為替レートは変動相場制です。1元の10分の1が「角」、100分の1が「分」となり、口頭では元を「块」（クアイ）、角を「毛」（マオ）と呼ぶのが一般的です。

Q. 言葉は？

A. 基本的に中国語だけ

公用語は北京語をベースにした「普通話」と呼ばれるものです。英語は高級ホテル内では問題ありませんが、その他の場所ではあまり通じません。日本語は日本人客の多いホテルなどでのみ通用します。

Q. 時差はどれくらい？

A. 1時間ほど日本が早い

日本と中国の時差は、1時間ほど日本が進んでいます。そのため、上海の時刻にプラス1時間すれば日本の時刻になります。サマータイムはありません。

Q. 交通手段は？

A. 地下鉄とタクシーが基本

来海者にも便利なのは地下鉄で、市街を中心に16路線（2019年8月現在）が運行し、運行間隔が短く、時間も正確です。日本と比べて料金の安いタクシーの利用も便利です。

Q. 治安は大丈夫？

A. おおむね安全ですが、油断は禁物

治安は中国の中でも1、2位を争う良さと比較的安全ですが、観光地や電車の中など人が多く集まる場所では、スリや引ったくりの被害が多く発生しているため、十分に気をつけましょう。

Q. ベストシーズンはいつ？

A. 青空と上海蟹の秋

日本と同じく四季がはっきりしているため、おすすめは気候も過ごしやすく、青空の下で観光できる日が多い春と秋です。特に上海蟹が旬を迎える9月下旬～11月がおすすめです。

○上海高島屋が閉店騒動から一転、営業継続へ

上海高島屋は、2012年に長寧区の虹橋路で開業しました。4万㎡もの売り場面積で、富裕層を中心に顧客を増やしてきましたが、近隣のショッピングセンターや百貨店との競争、電子商取引(EC)サイトの台頭で苦戦を強いられ、米中貿易摩擦勃発後は売上が減少していました。2019年2月期の営業収益は4億2,810万元と前年同期比1.6%増ですが、当期純利益は9,100万元の赤字。米中貿易摩擦の長期化による個人消費の落ち込みから採算改善は見込めないと判断され、8月25日の閉店を公表していました。

しかし、食事処などは大変賑わっており、週末に開催された音楽イベントなども盛況だったため、閉店はとても残念だと実感していました。ところが、不動産所有者会社の支持や上海市と長寧区の協力を得て、8月25日以降も通常営業を継続することになりました。

中国に住んで半年というこの短い期間でも、多

くのイノベーションが生まれては消える変化の激しさを感じずにはられません。電子決済など日本よりもはるかに進んでいるサービスもあります。成功要因としてよく言われるのが、レガシーの弱さが幸いして新しい技術が採用されやすいというものです。

もう1つは、成功の影に無数のトライアル&エラーがあるということです。こちらは、政府による社会実験的環境のサポートや失敗を失敗ではなく小さな成功ととらえる中国人の前向きな気質も関係していると思います。

4. 中国都市事情

中国国内では大きな地域差があり、それぞれにまったく違う「中国人」なのだということを思い知らされています。中国には人口100万人を超える都市が、なんと150近くもあります。また、1,000万人を超える巨大都市も14もあります。人口が多い順に見ると、重慶、上海、北京、成都、

来海の前に知っておくと便利 楽しさが倍増するマナー&ルールをご紹介します。

❗ 麺類はすすらない

麺類を食べるときの音は、海外では基本的にNGと言いますが、中国でも同様です。中国で音を立てて食べる人は見かけないので、周りから注目を浴びてしまうかもしれません。

❗ 取り皿は持ち上げない

レストランの取り皿は小さいため、日本人なら持って食べたいところですが、持ち上げるのはNGです。基本的に、ご飯や麺類も器は持ち上げません。スープはレンゲを使って飲みます。器に口をつけて飲むのもNGです。

❗ タクシーは助手席に座る

日本では一般的に乗客は後部座席に座りますが、中国では1人でも助手席に座ることが多いです。中国人は世間話が好きというのがありますが、最近では偽札へのすり替え防止も理由の一つのようです。

❗ 上海蟹は通じない

「上海蟹」というのは日本での通称で、そのまま中国語読みにしても通じません。注意しましょう。上海やそのほかの中国語圏では、一般的に「大闸蟹」(ダーチャーシエ)と呼ばれています。

❗ 箸を休めるときは縦に

日本人は横向きに箸を置きますが、中国では縦に置きます。レストランなどで横に置くと、「食事を終えた合図」とみなされ、食事の途中であっても料理を下げられてしまう場合があるため注意しましょう。

❗ 道路は青信号でも油断は禁物

中国では車両は日本と逆の右側通行です。また、基本的に交差点では赤信号でも右折できるため、青信号でも右折車が曲がってくる場合があります。ぼんやり道路を横断しないようにしましょう。

❗ タクシーのおつりに気をつけて

タクシーで偽札をつかまされるケースがあるので注意が必要です。おつりに偽札を混ぜるほか、支払いの際、出した100元札を別の偽札にすり替えて返すといった手法もあるため、少額の紙幣や交通カードで支払いましょう。

❗ どこでも値切れる訳ではない

中国では、まず「値切るのが当たり前」とよく言いますが、定価が付いているデパートやスーパー、専門店などでは、一般的に値切ることはないので注意しましょう。

❗ 生水は飲まない

上海の水道水はそのままでは飲用には適しません。中国の人はいったん沸かして飲みますが、観光客なら市販のミネラルウォーター(もしくは蒸留水)を購入しましょう。

❗ 割り勘はしない

基本的に日本のような「割り勘」はせず、「おごられたらおごり返す」が中国の常です。しかし、最近では若い人を中心に割り勘をする人も見られます。

❗ カンパイは飲み干すこと

「乾杯!」とは「杯」を「乾かす(空にする)」ことです。そのため、全部飲めない場合はカンパイはしないようにしましょう。日本語の乾杯は、中国語では「碰杯(ポンペイ=グラスをカチンと合わせる)」と言います。

❗ 行列に並ばない?

かつて、中国では列の割り込みが日常茶飯事でした。しかし、現在、上海のような都市部では、比較的整然と列に並んでいる人々が多く、割り込む人に注意する人もよく見かけます。



上海ヒストリーを知るキーワード

中国有数の貿易港として中国でも特異な歴史を重ねてきた上海ですが、その歩みを知ること、街の魅力がより見えてきます。ここでは上海の変遷について少しお話ししたいと思います。

① かつては漁村だった～上海県城 / 黄浦江 (写真1)

上海は、かつては沼や湿地などが多い漁村でしたが、黄浦江の物資輸送の中心地として最適だったため、唐時代以降、港町として発展しました。南宋時代には、上海県の県都として市街地が整備され、元時代には綿栽培が始まり、のちに綿織物業は上海の主要な産業となりました。



② 世界の表舞台へ出るきっかけ～アヘン戦争 (写真2)

1840年から麻薬のアヘンの貿易をめぐり、清とイギリスの戦争が起きました。戦争後に締結された南京条約により開港すると、それまで中国の一都市に過ぎなかった上海が、世界でも有数の貿易都市になりました。近代上海の歴史はここに端を発するものです。これにより英国租界（外国人居留地）の建設が開始されました。



③ 上海に一大勢力を築いた～日本租界 (写真3)

南京条約の締結から英国租界、フランス租界などが設けられるなか、日本からも夢を求め多くの人々が訪れました。特に虹口は日本人の居住者が多かったことから「日本租界」といわれていました。芥川龍之介、谷崎潤一郎などの文化人も上海を訪れ、その地を舞台とした作品を残しています。



④ 今もなお発展を続ける～近代の上海 (写真4)

1980年代の改革開放政策によって外資が流入しました。1990年代には農村だった浦東地区を開放、現代の上海を象徴する摩天楼の建設が始まりました。2010年には上海万博の開催にあたって、都市整備やインフラ建設が大規模に行われ、現在も発展は続いています。



天津、広州、深圳、石家荘、武漢、ハルビン、蘇州、臨沂、保定、南陽となっています。

中国ではよく「1級都市」「2級都市」といった言葉が使われるのですが、実は国の定義はなく、雑誌『第一財經週刊』の定義によるものです。1級都市は4つ。北京、上海、広州、深圳。世界で誰一人、知らぬ人のいないメガシティですね。

ここに2017年、新1級都市が15個、追加されました。成都、杭州、武漢、天津、南京、重慶、西安、長沙、青島、瀋陽、大連、厦門、蘇州、寧波、無錫。日本人であっても、中国に関心のある人なら、ご存じの名前でしょう。さらに2級都市が30個あり、1,000万人都市の石家荘、ハルビンはここに分類されています。3級都市は70個ありますが、ここに並ぶ名前は、日本人はまず知らないと思います。4級都市は90個で、5級都市は129個で、この辺になると足を踏み入れたことも、名前を聞いたこともありません。1,000万

人都市である臨沂と保定は3級都市に、南陽は4級都市に分類されています。人口は非常に多いですが、経済的にはさほど豊かでなく、有名でもない地方都市も存在するという事です。

中国人でもよく知らない都市があるのは、理由があります。その一つとして国土が広すぎる事が挙げられますが、もっと大きな理由に、ほんの20年前までは国内旅行そのものが、一般的ではなかったということがあるようです。

上海をはじめ大都市の人は、地方は衛生環境が悪く、アクセスも悪かったため、行きたがりませんでした。しかし、2000年代に入ってから的高速道路網の整備には目を見張るものがあり、自家用車を持つ人も増え、気軽に旅行ができるようになりました。チベットや内モンゴルといった辺境にも、お洒落なホテルが続々と建設され、麗江にいたっては、もはや世界レベルの観光地と呼べるまでに発展しました。

なお、海外旅行は1997年には既に始まりました。当初は「新馬泰」(シンマタイ)と呼ばれる、シンガポール、マレーシア、タイばかりでした(ちなみに、日本への団体旅行が始まったのが2000年、個人旅行は2009年からです)。いずれにせよ、旅行という意味では、国内よりも海外の方が先に普及したのかもしれませんが。

5. なぜ、中国でイノベーションが爆発的に生まれるのか?

時代はITからDT(データ・テクノロジー)へと移行し始めました。データは石油と同じように、経済活動の動力源になると、かつてアリババ集団の創業者の馬雲(ジャック・マー)が語ったように、今、中国で進行している様々な変化は、モバイル決済の爆発的な普及を突破口に、デジタル化の潮流に中国社会全体が乗った結果だといえます。

○モバイル決済がイノベーションの起点 新サービス→データ蓄積→資金流入→新サービス →データ蓄積サイクル

中国のイノベーションの発展は、アリババ集団の支付宝(アリペイ)と腾讯控股(テンセント)の微信支付(ウィーチャットペイ)が熾烈な競争によって牽引したモバイル決済がすべての起点になっています。その背景にはスマホの普及とQRコードの活用があります。

最近、日本でもスマホとQRコードによるモバイル決済が普及し始めましたが、中国の場合、その勢いはまさに無人の野を行くが如くで、気が付いたときにはモバイル決済が中国全土に広がっていました。その結果、世界の先頭を走るキャッシュレス社会、デジタル経済圏が誕生しました。これは金融サービス後進国だったからこそその一大飛躍だったのかもしれませんが。

モバイル決済によってシェアリングエコノミーの新サービスが生まれました。膨大な人口を背景に膨大な数の決済が膨大なデータとして蓄積されていきます。ここから中国型デジタル・イノベーションのサイクルが動き始めます。データの蓄積によって、個人の信用情報が整備され、新たなサービスに活用されます。そこにベンチャーファンドなどの資金が世界中から集まり、人工知能(AI)など最先端分野のベンチャー企業が相次いで誕生していくのです。

モバイル決済は、ビッグデータと画像認識やディープラーニングなどのAI技術との融合によって、シェアリングエコノミーやスマートシティな

どを生み出していきます。消費者の生活を便利にするという目的で始まった中国のフィンテック・サービスは、ビッグデータ蓄積のきっかけを作り、消費者の生活のデジタル化を深化させています。

モバイル決済は、キャッシュレス化の進展を後押しするだけではありません。本人認証と決済サービスをスマホで簡単に解決することによって、シェアリングサービスなどの新しいサービスのインフラとしての機能を持つようになりました。データの量的な蓄積が進んだ結果、技術とサービスに質的な変化が起きています。中国のモバイル決済は爆発的な成長を遂げており、取引規模は157.55兆元(2,678.35兆円)にまで達し、世界一の規模となりました。モバイル決済が普及する中国の大都市では、財布を持たない生活が当たり前になっています。

2018年12月末時点におけるネットの利用者は8億人を突破しました。そのうち、携帯電話経由での利用者数は8億1,698万人に上り、ネット利用者全体の9割以上を占めています(中国インターネット情報化センター発表の「第43回中国インターネット発展状況統計報告」)。

ネット普及による生活習慣の変化も顕著です。1人当たりのネット利用時間は、1週間で27.7時間です。また、ネット経由でニュースを閲覧する人が6.63億人、ネット経由で出前サービスを利用する人が3.64億人、最近急成長しているネット「ライブ中継」サービスは、短期間で4.25億人の利用者を獲得しています。サービスとして提供中のモバイルアプリは415万種類にもおよび生活のあらゆる場面にデジタル化の波が押し寄せています。

こうしたネット利用人口の急増とスマホの普及が、モバイル決済急成長の土台を作りました。2018年6月末時点、モバイル決済の利用者数は5.69億人、モバイル経由でシェア自転車サービスを利用する人は2.45億人に達しています。膨大なネット人口が生み出すスケールメリットは、モバイル決済をはじめとしたサービスの急速な発展の原動力となっています。

まさに、通信インフラでは先進国の後を追いかけていた中国が、モバイルインターネットの時代に一気に「カエル跳び」を果たし、先進国に追いつき、追い越した訳です。中国人の可処分所得は増加する一方、逆に携帯電話の平均価格は2,150元から1,800元に下落しています。その結果、スマホは中小都市や農村部にも一気に普及しています。



■ 金融顧客訪日旅行説明会&訪日消費パターン検討会の様子(招商銀行、拉卡拉(ラカラ)上海会社総部への視察)

6. 茨城県上海事務所の活用

さいごに、私が勤務する茨城県上海事務所についてご紹介していきます。

茨城県では、地理的・歴史的に関係が深く、また今後の経済的発展が見込まれる中国との交流を促進するため、1996年に上海に事務所を設立しました。弊所では、中国との交流を望む皆様のニーズに合わせ、「ビジネス」「経済」「文化」「教育」など幅広い分野について以下のような支援を行っています。

【企業のビジネス活動への支援】

中国でのビジネスに関心を持つ県内企業様に対して、関係団体や企業、展示会などへの視察・面談のアレンジ・アテンドなどのサービスを通して、中国における事業展開を支援しています。

【本県の産業拡大への支援】

本県産業の販売促進、PRに関する支援、本県への観光客誘致に係る支援、港湾振興に係るPRの実施など、本県産業の拡大に向けた取り組みを支援しています。



■ 7月に広東で開催された「ものづくり商談会」開幕式。特設ステージで茨城県をPRする様子(筆者は1番右)

【友好交流活動】

日中友好交流団など関係機関との人脈や情報網を生かし、県民主体の友好交流を推進するため、中国の学校訪問時のアレンジ・アテンドサービスを実施しています。

今後については、2019年11月に上海で開催予定の「第二回中国国際輸入博覧会」に茨城県関連企業様と合同でブースを出展する予定です。その他、中国各地での展覧会などに積極的に参加しています。

また、最近では、官民をあげて日立市かみね動物園へのジャイアントパンダの誘致に取り組んでおります。パンダの誘致実現は、日立市をはじめとする県北地域の活性化はもとより、本県の観光振興の面においても起爆剤となることが期待されます。

本県には日立をはじめとするものづくり産業や世界をリードするつくばの科学技術もあることから、パンダ繁殖の研究推進ならびに中国との国際交流、経済交流の面においても多大なる効果をもたらすものと思われれます。そのためには誘致交渉はもとより、地域の誘致への機運醸成や飼育環境の整備などの諸課題の解決に向け、協力体制の構築は不可欠になることでしょう。

中国でのビジネスに興味を持つ企業様は、是非、お気軽に茨城県上海事務所あてにご連絡ください。お取引がある筑波銀行本支店を通じてでも結構です。筑波銀行行員が外向しているこの機会に是非、ご活用いただければと思います。



■ 茨城県ブースでの出展企業様と一緒に(筆者は右から4番目)

【事務所の概要】

所在地：上海市長寧区延安西路 2201 号
上海国際貿易センタービル 1708 室

電話：86-21-6275-3338

メール：ibaraki@ibaraki.org.cn (代表)
taki@ibaraki.org.cn (個人)

職員：日本人 2 名、中国人 2 名 (日本語可)

公式 HP：http://www.shanghai.pref.ibaraki.jp/